

資料編

(仮称) 沖縄サーキット整備基本構想策定業務 検討委員会

委員名簿

【外部委員】

	団体・組織名	役職・氏名	備考
1	国立大学法人 琉球大学	特命准教授 宮里 大八	学識者
2	沖縄商工会議所 青年部	副会長 上間 悟	
3	沖縄市観光物産振興協会	事務局長 崎浜 秀嗣	
4	沖縄警察署 交通対策課	課長 高嶺 敏光	
5	沖縄県自動車販売協会	会長 堀川 恭進	4輪メーカー代表
6	沖縄県二輪車普及安全協会	会長 比嘉 勉	2輪メーカー代表
7	日本自動車連盟沖縄支部 (JAF)	事務所次長 松原 啓之	4輪統括団体
8	沖縄レーシングカート連盟	理事 翁長 達也	4輪団体代表
9	東海輪業	代表 仲村 幸之助	2輪団体代表

【内部委員】

	部課名	役職	氏名
1	企画部 プロジェクト推進室	室長	山内 強
2	経済文化部 観光振興課	課長	天願 亮
3	経済文化部 企業誘致課	課長	島袋 勝博
4	教育委員会 指導部	次長	比嘉 俊昭
5	教育委員会 教育部 市民スポーツ課	課長	玉城 譲

名称	(仮称) 沖縄サーキット整備基本構想策定業務 第1回検討委員会
日時	2016年7月21日(木)
場所	沖縄市役所 4階 庁議室
議事概要	<p>1. サーキットの整備ステップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ まず、多目的広場を整備し、モータースポーツに対する住民理解を促進すると共に、県内モータースポーツのメッカ化を実現し、来訪目的地となりうる沖縄サーキットを整備する。 ■ 多目的広場は早い段階で整備し、沖縄サーキットは中長期ビジョンとして取りまとめた上で、中長期的に整備を進めていく想定である。 <p>2. サーキットのコンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大学や研究機関等がEV等の新たな自動車を開発できるようなサーキットにするべきである。現状は開発できる場がなく、県外に流出している。 ■ 鈴鹿サーキットでは3,000円/30分、岡山国際サーキットでは4,000円/30分で個人利用が可能だが、岡山国際サーキットは市民は安価に利用可能であり、沖縄市民に対しても同じように安価に提供し、市民にとって利用しやすいサーキットにするべきではないか。



名称	(仮称) 沖縄サーキット整備基本構想策定業務 第2回検討委員会
日時	2016年11月28日(月)
場所	沖縄市役所 4階 庁議室
議事概要	<p>1. 沖縄サーキットの整備ステップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ まずはコザモータースポーツフェスティバルを継続しながらモータースポーツの認知度を向上させる。その後、多目的広場の立地選定・整備を行ってモータースポーツ競技を開催し、受容性を検証した後に初めて長期ビジョンである沖縄サーキットの整備に移行する。 <p>2. 短期ビジョンについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 多目的広場に関しては用地の選定が必要である。規模を決定しない限り、具体的な設計や予算が明確にならならず、整備に向けた工程表を作成することができない。 ■ 浅間台スポーツランドの事例は、沖縄における多目的広場のイメージに合致しており、浅間台スポーツランドをベンチマークとしながら検討すべきではないか。 <p>3. 中長期ビジョンについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 沖縄サーキットの予算規模はどの程度の予定か。鈴鹿サーキットや富士スピードウェイはかなり整備費用が高く、回収するのが難しい。富士スピードウェイはトヨタが背後にいるから経営が成り立っているのではないか。 ■ 沖縄サーキットを建設した際には、観光振興だけでなく、現実的に雇用創出につながる事が重要である。



名称	(仮称) 沖縄サーキット整備基本構想策定業務 第3回検討委員会
日時	2017年2月16日(木)
場所	沖縄市役所 地下1階 入札室
議事概要	<p>1. 沖縄サーキットの基本構想（メインコンセプト及び基本方針）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 沖縄市は、他のスポーツと同様にモータースポーツを「青少年の健全な育成」等に向けた文化の一つとして育成するという要素を加えるべき。 ■ 「沖縄市から交通事故を無くす」といった大きな社会的な大義を要素に加えるべき。 <p>2. 短期ビジョンの実現に向けた考え方・候補地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 多目的広場の候補地について、特に農業振興地域白地地域を候補にする場合、（多目的広場よりも）後から周辺に進出してきた施設との間に発生する騒音問題等によって、運営が困難になるリスクを十分に考慮すべき。土地利用に向けた交渉の難しさを考慮しない前提ではあるが、長期安定的な運用を念頭に置けば、提供施設区域内が有力な候補に挙がるのではないかと。 <p>3. 多目的広場の実現に向けた今後の検討事項について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 休日の稼働は十分に確保できるが、平日の稼働を、交通安全教室等を含めて安定的に埋めていくのが課題となる。（沖縄県自動車販売協会） ■ 走る場所が無い故に、県内での競技活動が衰退し始めている面もある。早急な整備を期待したい。 ■ 滞在型観光への貢献を、沖縄サーキット整備の目的に据えるのであれば、多目的広場で行うレースやイベントの前後に何らかの観光イベント等を連動させて滞在につながりうるかを検討することが必要ではないかと。

富士スピードウェイ「2016 Inter Proto Series」におけるヒアリング

ヒアリング先	Inter Proto Sport 株式会社 関谷社長
日時	2016年9月18日(日)
場所	富士スピードウェイ

- アジアにおける富裕層の人口増加と共に、レースに参加するアジアのジェントルマンドライバーの数は顕著に増加している。
- ジェントルマンドライバーは、施設の清潔感や、運営におけるサービスの充実度から日本でのレース・イベント参加を好む傾向がある。
- ジェントルマンドライバーは、走りに来るだけではなく、家族を連れてバカンスに来るため、沖縄のリゾート性と相性が良い。
- アジアのジェントルマンドライバーはレースに参加するためにプロも一緒に連れてきており、プロの人件費や交通費・宿泊費を負担している。
- 今後は、女性のレーサーをサポートしていきたいとも考えており、レディース選手権も開催していきたい。

ヒアリング先	株式会社エフジェイ 武井社長
日時	2016年9月18日(日)
場所	富士スピードウェイ

- 世界的にジェントルマンドライバーは増加しており、サーキットに対する需要は増加しているのではないかと。
- アメリカのジェントルマンドライバー向けの新設サーキットの周りにある別荘が完売した。
- また、最近バンクーバーでもジェントルマンドライバー向けのサーキットを新設しようとしている。
- 沖縄は立地も良く、遊べるところも多いため、アジアのジェントルマンドライバーの来訪が期待できるのではないかと。

(参考) 2016 Inter Proto Seriesの様子



レースの様子



アジアから自動車を輸送・持参



VIP ルームでは家族で食事・観戦



家族もサーキットでイベントを楽しんでいる

鈴鹿サーキット「Sound of ENGINE 2016」におけるヒアリング

ヒアリング先	株式会社モビリティランド 橋田主任
日時	2016年11月20日(日)
場所	鈴鹿サーキット

- 本田技研工業の100%出資会社で850名の従業員がいる。
- サーキットの稼働は、平日を含め100%近い。
 - 土日はレースが6割、イベントが4割程度で使用されている。
 - 平日は貸切走行が多い。
 - 走行会よりもコース貸切の方が多。
- サーキットによる三重県の経済効果は292億円である。
- 周辺のホテルには、年間15万人程度の宿泊客が滞在している。平均稼働率は65%程度で、週末が90%、平日が50%程度である。
- 宿泊客の属性は、ファミリー7割、レース関係者が2割、団体関連が1割程度の構成比である。
- 外国人も頻繁に来訪するが、香港人が最も多い。
- モビリティランドの乗り物は自社開発である。
- 子供たちに乗り物の楽しさを感じてもらえるように、自ら操作して走るアトラクションを中心に設置している。他の遊園地のような自動走行のアトラクションと比較して、補助の従業員の人件費等はかかってしまうが、理念を重視してそのようなアトラクションを中心に設置している。

(参考) ゆうえんちモートピアの様子



乗り物の楽しさを体感できるアトラクション

ヒアリング先	鈴鹿市産業振興部 小野副参事、石井氏
日時	2016年11月20日(日)
場所	鈴鹿サーキット

- サーキット運営に関しては、2004年まで鈴鹿市も国も関わってこなかったが、サーキットによる雇用効果等の行政に与える影響も大きいため、少しずつ連携するようになった（サーキットに憧れてレーサー等が鈴鹿市に集まってきている）
- 具体的には、鈴鹿 F1 日本グランプリ地域活性化協議会を組成し、1,000万円程度の予算を提供している。
- 他市との連携は、イベント時の宿泊施設やレジャー施設の紹介等で連携するようにしている。
- その他モータースポーツを推進する団体としては、モータースポーツを創り上げた人たち（レーサーやアナウンサー等）が所属するモータースポーツ友の会（NPO 法人）は、年間 350 万円程度の補助金をもらって運営されている。
- サーキットに対して、住民は基本的には歓迎ムードであり、既存住民はモータースポーツ文化の街だと捉えている。
- 小学校でのトークショーの開催等、小さいころからモータースポーツに親しんでいることもあり、一般的な暴行行為については、鈴鹿市では比較的少ないと感じている。
- F1 日本グランプリ時の交通円滑化にも取り組んでおり、KPI を設定しながら改善に取り組んでいる。

ヒアリング先	鈴鹿サーキット交通教育センター 平井所長
日時	2016年11月21日(月)
場所	鈴鹿サーキット

- 二輪車の普及に向けて、交通教育センターを利用しやすいように低単価で提供している。
- 交通教育センター内での研修や訓練が中心だが、鈴鹿サーキットのコースを使用して研修を行う場合もある。サーキットの利用は1週間に6時間程度である。
- 企業研修、白バイや高速パトロール隊の訓練、通信会社の緊急走行、教習所の先生の訓練、警察の合同訓練等で交通教育センターが利用されている。
- 企業研修が最も大きい収益源である。企業は若い人の運転技術に課題を抱えており、ニーズが多い。
- 一方、若い人を研修する際に鈴鹿サーキットのコースを使用するとリスクがある。コース内で高速走行をして楽しさを感じてしまうとその後危険運転をしてしまう可能性があるので注意している。
- インストラクターは11人程度である。ホンダオリジナルのインストラクター資格を取得した指導員が研修を行うルールとなっている。
- カリキュラムは独自で作成したものである。
- 当施設は、敷地が広く、メンテナンスのコストが高い。

(参考) 交通教育センターの様子



使用できる自動車



走行訓練ができるコース



雨天時のスリップを体験できるコース



ブレーキテストができるコース

ヒアリング先	レブリ 館代表取締役
日時	2016年11月21日(月)
場所	レブリ

- 鈴鹿サーキット周辺で、ドライバーにフォーミュラカーを年間300万円程度で貸し出し、年間2,000万円程度でフォーミュラカーの保管・メンテナンスを行っている。
- すべてではないが、部品の供給も自ら行っている。オリジナルパーツの製造もおこなっている。
- 3人で運営しており、6～7台程度が常に保管されている。
- 鈴鹿サーキットの周辺には、当社のようなレンタルガレージ（自動車の貸し出し・保管・整備等を実施）の事業者が13社程度存在する。
- プロモーションをしても効率が悪いので、口コミや紹介等で新たな顧客を開拓している。



外観

ヒアリング先	ウエストレーシングカーズ株式会社 神谷相談役顧問
日時	2016年11月21日(月)
場所	ウエストレーシングカーズ

- 鈴鹿サーキット周辺で、自動車の貸し出し・販売・保管・メンテナンスを行っている。
- ドライバーが保有している割合が多く、レンタルは4台/125台である。
- 当社では1,178台の自動車生産の実績もある(他の自動車もある)。3~4台/月程度の自動車を生産している。



外観

(仮称) 沖縄サーキット整備基本構想策定業務報告書

発行日：平成 29 年 3 月

発行者：沖縄市 企画部 プロジェクト推進室

沖縄市仲宗根町 2 6 番 1 号

Tel : 098 (939) 1212 (代表)

調査・編集：沖縄サーキット基本構想検討共同企業体

エイム株式会社

愛知県名古屋市西区名駅二丁目 2 7 番 8 号

名古屋プライムセントラルタワー 1 4 階

Tel : 0120 (333) 157 (代表)

デロイトトーマツコンサルティング合同会社

東京都千代田区丸の内三丁目 3 番 1 号新東京ビル 4 階

Tel : 03 (5220) 8600 (代表)

